

(件名) ウラジオストクのインバウンド数増加について

ウラジオストクをはじめとする沿海地方を訪れる外国人観光客数（1～9月）が昨年同時期より増加しているとの統計発表がありましたので、レポートします。

(1) 沿海地方を訪れる外国人観光客数（2019年1～9月）について

沿海地方政府によると、沿海地方を訪れた外国人観光客数は2019年1～9月の9ヵ月間で504千人となり、既に昨年1年間の実績472千人を超えました。最も多かったのは韓国人で238千人（昨年1年間：218千人）、次いで中国からの観光客が220千人（同：227千人）でした。従来、沿海地方の外国人観光客としては中国人が最多でしたが、当地における韓国人観光客の存在感の高まりを裏打ちする結果となりました。一方、日本からの観光客も24千人（同：15千人）と増加しています。韓国と日本は9ヵ月間で昨年1年間の実績を上回っていることから、改めて急増ぶりがうかがえます（表1参照）。また、日本とウラジオストクを結ぶ航空路線が増える来年は、日本人観光客の更なる増加が期待できます。

(2) ウラジオストクと日本を結ぶ航空路線の近況について

すでにJALとANAが来年から成田－ウラジオストク間の路線を新規就航させることを発表しています。JALは、2020年2月28日に運航を開始し、3月末までは週3便（水・金・日）、3月末以降は毎日運航としています。一方ANAは、2020年3月16日から、週2便（月・金）で運航としています。これにより日系航空会社の同路線の運航は3月末以降、月・金は2便（JALとANA）、それ以外は1便（JAL）となります。この他にロシアのアエロフロートとシベリア航空が運航しているため、毎日1～4便が成田－ウラジオストク間を飛ぶこととなります。また、路線開設時期は未定ですが、ほかにもウラル航空が関西・成田－ウラジオストク間、シベリア航空が羽田－ウラジオストク間の路線の就航を計画しているという報道もあります。

(3) ウラル航空が運航している新千歳－ウラジオストク間の直行便について

10月から利用率低迷のため一時運休していた同路線ですが、12月21日から再開し、現在は運休前同様週3便運航しています。今後も利用率が下がると運休が危惧されますが、その対策として、10月にはウラジオストクでの北海道観光セミナー（北海道観光振興機構主催）において、直行便の利用率上昇に向けたプロモーション活動が実施されました。こうした活動に加え、上述したとおり、来年には日本とウラジオストクを結ぶ航空路線が増えることで双方の行き来が活発化する可能性があります。この相乗効果により新千歳－ウラジオストク間の直行便の利用促進にもつながることを期待します。

(表1：沿海地方を訪れた外国人観光客の推移)

(人)

年	全ての国	中国	韓国	日本	その他
2015	171,275	134,200	25,470	6,127	5,478
2016	248,367	190,867	43,426	4,977	9,097
2017	330,320	217,852	91,512	12,966	7,960
2018	471,821	227,041	217,745	15,336	11,699
2019(※)	504,255	220,201	238,297	23,791	21,966

※2019年は1月～9月の9ヵ月間の実績

(出典：沿海地方行政政府HPの資料を基に当事務所作成)